

上下水第14540号  
平成30年4月19日

高田区地域協議会  
会長 西山 要耕 様

上越市長 村山 秀幸  
(都市整備部下水道建設課)  
(都市整備部河川海岸砂防課)

高田公園周辺の雨水排水対策について (回答)

平成30年3月20日付けで提出のあった意見書について、下記のとおり回答します。

記

1. 現在市が取り組む雨水管理総合計画の策定を急ぎ、当該地域の雨水を確実に排水するための雨水幹線を早急に整備すること。

雨水管理総合計画については、平成29年度及び平成30年度で策定することとして、作業を進めているところであります。幹線の整備にあたっては、この雨水管理総合計画で定めた優先順位に基づき整備を進めてまいります。

雨水幹線整備には多くの年月と費用がかかることから、財政状況を見た中で進めるとともに、既存の水路の有効活用や、排水区を見直すなど、効率的な整備を進め、少しでも早く、多くの地域の雨水幹線の整備が完了するよう努めてまいります。

2. 今後の豪雨による関川の水位上昇に備え、国土交通省に対し、排水能力毎秒1トンの排水ポンプが現在2基設置されている水戸の川排水機場に、3基目の排水ポンプを早急に設置するよう強く働き掛けること。

水戸の川排水機場は、関川本川の水位が上昇した際に内水を強制排除する



ために国土交通省が設置した施設であり、平成7年の7.11規模の出水に対して床上浸水を防止することを目標に、排水能力1 m<sup>3</sup>/秒のポンプが2基設置されております。

市としましては、排水機場に3基目のポンプが設置可能な状況であることを踏まえ、7月と10月の降雨後と本年3月に排水機場を管理する国土交通省高田河川国道事務所へポンプの増設を要望しましたが、高田河川国道事務所からは「農地や道路冠水等は発生したものの、床上浸水は発生しなかったこと、ポンプの増設には多額の費用が必要となることなどから、現時点で早急に排水ポンプを増設する考えはない」との回答でした。

いずれにいたしましても、大雨等により関川の水位が上昇した際に、道路冠水や床下浸水等が発生していることから、今後も浸水被害の軽減に向けて排水ポンプの増強を働き掛けてまいります。